



ほしの整形外科クリニック 院長

星野 秀士氏

「第二の脳」手のQOLを守る

2019年1月、父・鉄士氏から医院を承継。開業から2年を迎えた。日本整形外科学会認定整形外科専門医。整形外科全般の診療に加え、手の病気の治療に力を入れる。

昨年2～8月の手術数計161件のうち、72件は「関節鏡下手根管開放手術」。骨と靱帯に囲まれた手首の空間「手根管」を通る神経が、周囲にある腱の炎症などで圧迫され、親指から薬指までがしびれ

る「手根管症候群」に対して行っている手術である。内視鏡を使い、靱帯を切開して神経への圧迫を取り除く。手術時間は約20分で、日帰りで行っている。

手根管症候群は50代を中心とした更年期の女性に多く生じる（日本整形外科学会ホームページによる）ため、最近では更年期障害の一つとも考えられている。同クリニックは、神経に電気を流してその流れを調べる「神経伝導速度検査」で

診断を確定している。治療はまず、注射や装具など保存的治療を行い、症状が変わらない場合は内視鏡手術で治療する。

熊本大学卒業後、九州大学整形外科教室に入局。福岡、熊本、山口各県や台湾の病院で、切断された指をつなぐなど直径1ミ以下の血管を吻合する技術を必要とする手術を手掛けてきた。「手は、複雑な動きや感覚を持ち『第二の脳』とも呼ばれているが、そのしびれや痛みによりQOL（生活の質）が損なわれてしまう。そのような患者さんの力になりたい」と思い開業した」という。

「整形外科は、手術が治療の始まり」と考え、術後のリハビリに取り組む。自身が長年勤めた熊本の病院で作業療法士が手のリハビリを研修して技術を習得。また、天井からつるしたロープで体を支えるノルウェー発祥の器具を使いながら、理学療法士らと共に腰や膝の機能回復を目指す。

「高齢化によって運動器を使う年月が長くなった。リハビリの最終目標は社会復帰。筋トレやストレッチといったケアで長持ちさせて、QOLの向上を図りたい」と願う。



手の病気の治療に力を入れる

病院DATA

- 診療科目
整形外科・リハビリテーション科
- 診療時間
月～土／9:00～12:30
月・火・水・金／14:00～18:00
- 休診日
日曜、祝日、木・土曜午後



医療法人 健手会

ほしの整形外科クリニック

大分市今津留3-2-3
TEL097-551-1173
<https://hoshino-cl.jp>

